報道関係者各位

2015 年 5 月 14 日

一般社団法人 日本ユニバーサルマナー協会

障害のある講師が伝える、中学校・高等学校向け出張講座「ユニバーサルマナーアカデミックプログラム」を提供開始

一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会（大阪府大阪市、代表理事：垣内俊哉）は、障害のある講師が高齢者や障がい者への向き合い方を伝える、中学校・高等学校向け出張講座「ユニバーサルマナーアカデミックプログラム」の提供を開始します。提供開始にあたり、参加校（対象：47 都道府県より中学校・高等学校各一校ずつ）を 2015 年 5 月 14 日より募集します。

「ユニバーサルマナーアカデミックプログラム」は、これからの日本が世界と繋がる多様性の時代を迎えるにあたり、**高齢者や障がい者など、多様な方々との違いを受け入れ、さりげない配慮ができる若者を育成したい**という思いから実施するものです。2015 年 4 月 14 日に、文部科学省がパラリンピック教育を学習指導要綱に盛り込むなど、多様性を受け入れ、関心を持つ教育は注目を集めています。本プログラムでは障害のある当事者が講師を務め、「自分とは違う誰かのことを考え、向き合い、行動すること」をテーマに 50 分間の授業を行います。

提供開始に先立ち、学校法人品川女子学院（東京都品川区）の中等部・高等部生合計 248 名が受講し、受講前は「困っている高齢者や障害者に声をかける自信がある」と答えた学生が 19%に留まったに対し、受講後は 98%に増加しました。

ユニバーサルマナーアカデミックプログラム（50分）

- バリアフリーとユニバーサルデザインとは
- ユニバーサルマナーを必要とする人々
- 人と人との違いを知り、受け入れるワーク
- どんな人が、どんなことに困るだろう？
- 視覚障害のある方の簡易体験ワーク
- 聴覚障害のある方の簡易体験ワーク
- 困っている方を見かけた時のマナー
- 迷わず、すぐ行動する勇気を持つヒント

認定証授与

▼

アンケート記入

ユニバーサルマナーアカデミックプログラムの実施風景

※写真は品川女子学院にて学生 248 名が受講した様子です

▲ 障害のある講師が、自らの体験も交えながら「人と人との違い」や「高齢者や障がい者のニーズ・向き合い方」について講義。スライドを使って、基本的なユニバーサルマナーを学ぶ。

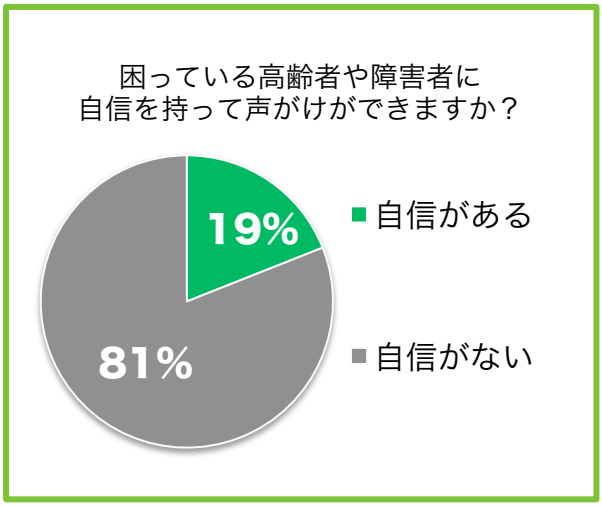
▲視覚障がい者に音声で情報を伝える練習。

▲全員がユニバーサルマナー修了書を取得。

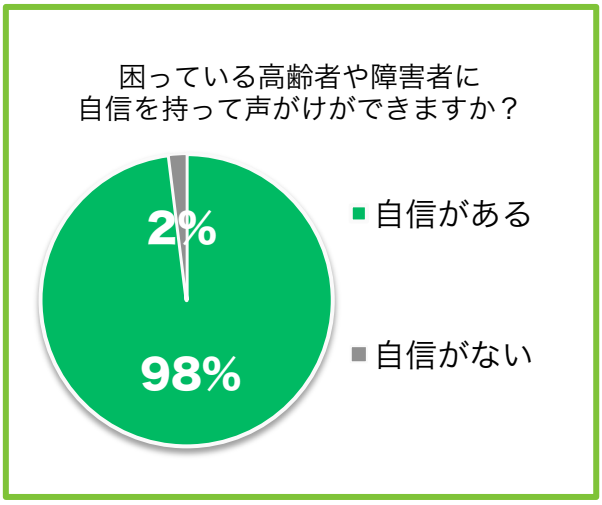
「困っている高齢者や障がい者に、声をかける自信が持てた」学生

受講後 98%に増加！（対象学生：248 名）

受講前(2015.02)アンケート



受講後(2015.03)アンケート



ユニバーサルマナーアカデミックプログラムに参加した学生の声

■ 電車でお年寄りに席を譲った時、「年寄り扱いするな」と怒られてから、怖いと思っていた。でも、私の声のかけかたも悪かったと思う。これからも行動していきたい。

■ 車いすの人に、どう接したら良いかわからなかった。
「何かお手伝いできることはありますか」と声をかけていこうと思う。

■ 困っている人を見つけても、迷って何もできないことが多かった。
これからは、すぐに行動することが大切だと感じた。

■ 家族にもおじいちゃん・おばあちゃんがいるので、家族に喜んでもらえる自信ができた。

■ 学んだことを、家族や先輩にも教えていけば、もっと良い社会になると思う。

■ 障害のある人に対して、どんなことに困るのか、どうサポートすれば良いのかについて、もっと詳しいことを学びたいと思った。

品川女子学院校長　漆 紫穂子先生によるコメント

今回の講義の導入にいたったきっかけは？
これからの時代は、ますます世界がつながっていく多様性の時代です。そんな未来に生きる生徒たちには、人との違いを大切にし、互いを活かし合うことのできる人に育ってほしいと思い、ユニバーサルマナーの講義をしていただきました。

受講された生徒の皆さんにのぞむことは何ですか？
2020 年、オリンピック・パラリンピックが開催されます。交通の要衝「品川」にある品川女子学院の生徒には、ユニバーサルマナーをしっかりといかし、様々な場面で周りの方のお手伝いができる、気遣いのできる人として貢献してほしいと思います。

実際に講義をご見学いただいていかがでしたか？
自らの障害を社会貢献に活かしている先生がお話されると説得力があり、あっという間の 50 分間でした。すごい勢いでノートを取る生徒ばかりで、ワークシートには大切な内容が裏面まで使ってぎっしり書き込んであり、感想欄には「気づき」と「今後やるべきこと」が記されていました。認定証と一緒に 撮影した記念写真の生徒たちの笑顔が印象的でした。きっと行動に移してくれると思います。

（写真右：漆紫穂子先生　写真左：垣内俊哉）

障害のある当事者が講師を務めることで、気づきの幅を広げます

ユニバーサルマナーアカデミックプログラムで講師を務めるのは、全員が障害のある講師です。講師はこれまでに企業・自治体・教育機関などでのユニバーサルマナーに関連する研修講師の実績を重ねており、「わかりやすく」「伝わりやすく」「納得しやすい」講義を提供します。

（ 講師の例 ）

岸田 ひろ実　Hiromi Kishida

2008 年に心臓病手術の後遺症により、下半身麻痺となる。歩けないことに苦しみ、悩む日々だったが、自分にしか伝えられないことで社会に元気を与えたいと思い、自身の経験をいかした研修講師として活躍。障害者や高齢者への向き合い方を教える「ユニバーサルマナー検定」や、知的障害のある長男の子育てを通じて得た知識による障害のある子どもを持つ親への講演など。2014 年 TEDxYouth@Kobe にてスピーカーとして登壇。2015 年日経新聞「結び人」にて特集される。

所要時間	50 分間
配布資料等	受講者全員に認定証+ワークシート
講義費用	何名受講しても一律 10 万円(税込) + 往復交通費 ※47 都道府県より中学校・高等学校各 1 校ずつの限定価格 通常料金は一律 20 万円(税込) ＋ 往復交通費
対象	中学校・高等学校 ※学校単位でのお申し込みとなります
申込み 問い合わせ	ホームページよりご確認ください 特設ホームページ：http://www.universal-manners.jp/

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】
一般社団法人 日本ユニバーサルマナー協会
広報担当：　岸田 奈美(きしだ なみ)
電話番号： 06-6195-4466　　メール　：info@universal-manners.jp